



『園城寺蔵 智証大師自筆文字史資料集
天台寺門宗教文化資料集成国語・国文学編』（園城
寺編 三弥井書店）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐野, 比呂己 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/8687

【図書紹介】

『園城寺蔵 智証大師自筆文字史資料集 天台寺門宗教文化資料集成 国語・国文学編』

(園城寺編 三弥井書店 平成二十三年(二〇一一)五月 全八三頁)

北海道教育大学釧路校准教授

佐野 比呂己

園城寺には、多くの教学・歴史資料が伝来するのみでなく、国語学、国文学方面から注目される聖教も多く存している。

本書は、その中から国語史、特に文字史の研究に資する資料を天台寺門宗開祖智証大師円珍(八一四—八九一)の遺著・遺墨の中で文字史資料として有用性の高い自筆資料六点と智証大師が唐人と交換した「来翰集」二点を影印とカラー画像を収めたものである。

文字史の資料としては、年代、筆者が明確にわかるものが重視される。さらにその筆者の履歴が明らかであるものが望ましいことは言うまでもない。

そうした意味で、円珍の遺墨集成の如く仏教各宗祖師等のそれは、同一個人の年代の明らかな文字資料として貴重である。他方、言語生活史の視点からすれば、個人の言語生活の経年変化をうかがい知る上でも重視すべき資料である。

こうしたことから本書の発行は、多方面にわたって重要な資料ということになる。

円珍の遺墨集成は、現在、次のように別々に所蔵されている。

『智証大師関係文書典籍』園城寺蔵

『円珍関係文書』国(東京国立博物館保管)蔵

これは明治以降の北白宮家への移動、そのの国有化といった事態を反映している。

これらは既に『園城寺文書』第一巻(園城寺 平成十年(一九九八)十月)に集成され、その中に翻刻とともに影印も収められている。しかし、それは活字による翻刻と影印のみであり、文字史資料として利用するには限界があった。

園城寺としては、これらをしかるべき形で公開したかった。し

かし、独自にサーバを設置して、WEB公開するには維持コストがかなりのものとなり、将来にわたって公開を継続する上で難がある。天台寺門宗教文化資料集成国語・国文学編編纂委員会（委員長・石井行雄（現、北海道教育大学釧路校准教授））が、DVD版で市販するという方法を検討し、発行に至ったのであった。

定価は七六〇〇円である。この価格であるならば、通常では書冊にあるモノクロ写真の影印の部分だけでも、定価となるのが相場である。これならば、仏教学・国語学関係の研究者でも、簡単に手に入れることができるはずである。



三島井書局

本書にはカラー高画質の画像資料の入ったDVDがついている。加えて、これらの画像には、現状の記録という意味で本文のみでなく、巻首から巻軸まで収められているのである。

読者の利用の便を図るため、書冊の形でモノクロ写真の影印、簡単な解説、利用の手引も附されているという配慮も見られる。DVD、書冊の両者相俟って、十全な活用が期待できるところである。

ただ、仕様として、WEBブラウザで写真を一枚一枚見るようになっているので、自在に自分で写真を加工してということは基本的にできないようになってきている。しかし、これは、書店が商品として売る以上は、ある程度、やむを得ないことである。

文化財のデジタルアーカイブというと、現代においては安易にWEB公開の方向に発想がむかってしまいがちである。しかし、WEB公開では、その維持管理のコストはかなりのものとなる。

実物は、厳然として存在する。世に出るのは、デジタル版の複製である。このようにわりきれば、今回の圓城寺、及び編纂委員会の英断に讃辞を送る次第である。実物の安全な保護とその有効な学術利用とのバランスを考えた場合、DVD出版も一つの選択肢となりうることを示したといえよう。

本書が機縁となり、デジタルデータの公開が、他の所蔵機関でも積極的に推進されることを願う次第である。そして、このような資料を活用しての研究として、どのようなことが可能であるのか、検討していく必要があるだろう。